



53

2013 WINTER

[フライイング
フィッシュ]



INTERVIEW

濱田美穂 教授

高知から日本、
そして世界へ

卓球部の快進撃はまだまだ続く!

NEWS

山田を元気に
「おはまる市」開催!!

来場者はのべ2000人!

地元土佐山田町の冬の風物詩
KUT+illumination 2012

Flying Fish Festival 2012

大学祭 “colors”

KUT INFORMATION

秋季卒業式・学位授与式／秋季入学式／佐久間健人学長が監製褒章を受賞／中田慎介教授が瑞宝小綬章を受賞／南海地震を想定 全学一斉防災訓練を実施／「リレーフォーライフin高知」に参加／地域と学生が一体に！郷土芸能継承をサポート／高知工科大学ナノテク研シンポジウム2012／嶺南大学校訪問団が来学／科学研究費助成事業審査委員として篠森敬三教授を表彰／片地小に出前授業 紙ロケット打ち上げ体験！／さらなる飛躍の第一歩！学生が論文賞をダブル受賞／技術・交流展示会に出展／キャチロボバトルコンテストでロボット倶楽部が優勝！／立ち見が出るほど大盛況！公開講演会を開催／研究成果の実用化をめざして「CIC 東京 新技術説明会」を開催／食育料理教室を開催／日本文化研修の開催／香美警察署と合同で秋の交通安全運動を実施／冬の科学教室を実施／ソフトボール部が快挙！秋季大会（四国地区）で優勝／植生回復ボランティア活動に参加

表紙のコトバ=どんなボールも!

現役時代の濱田先生はカット主戦型。どんなボールも守って守って、甘くなったところを攻撃！躍進する工科大卓球部の秘密、元世界チャンピオンの指導法とは？

工科大から
世界へ

ユニバーシアード
出場目標



現在の部員数は、男子18名、女子11名。平日18時から21時までの通常練習のほか、授業の空き時間には個人練習を行い、土日も休みなく練習に励む。

きた濱田先生らしい深い決断である。その後は、高知に戻り結婚。30才のときに、土佐女子高校の校長先生から打診があり、指導者の道を歩み始める。32年間動めた中で、同校から国際大会に出場した選手は、15名以上にもおよびという。

球の本場、中国で学んだことは、普段の練習にも活かしているという。「部員たちには『絶対ユニバーシアードに出るよ』と言っています。運動神経が鈍いと言われてきた私が、世界で戦えたのも、絶対にできるとほめて伸ばしてく

目標は高く掲げ、絶対にできると信じる

濱田先生はこれまで卓球を通して、世界各国を飛び回ってきた。「カンボジアの選手に練習頻度を聞かれ、『毎日です』と答えると、『毎日よい環境で練習できる日本人たちがうらやましい。私達は今日を生き延びる事がまず第一です。』と言われたことは忘れられません。若い人たちにはどんどん世界に出て、いろんなことを感じ取ってほしいですね。」

全日本学生監督として海外遠征に参加するほか、昨夏には部員（男女16人）と、中国の瀋陽工業大学、黒竜江大学、ハルビン工業大学を訪問し、合同練習や公開試合などを通して交流を深めた。卓



れた指導者の方々のおかげです。無理だと思ふことも、本気でやればできるということを伝えていきたいですね。」

普段は柔らかい笑顔が印象的な濱田先生だが、いざラケットを握ると、鋭い世界チャンピオンの顔になる。緊張感漂う練習場から、今日も目標は高く、世界を見据えている。

Teacher's Break

時間があれば読書で過ごす

普段は練習や試合、海外遠征などで、各地を飛び回る生活を送っているためか、少しでも時間があれば、静かに読書をして過ごすのがお気に入りだという濱田先生。人物伝や歴史もののほか、ピンときたものやいろんな人に勧められたものを、ジャンルを問わず読んでいるという。先生自身が編集に携わっていた「卓球レポート」は、今でも毎号欠かさず目を通しているそうだ。



濱田美穂

の積み重ねだった。中学1年の夏に、日欧対抗という交流イベントが高知市で開催されたときのことだ。「日の丸のマークがついた紺色のユニフォームでプレーする選手たちの姿に魅せられ、私もどうせやるなら日の丸をつけてプレーしたいと強く思いました。まだラリーも続かない頃なので、そんな希望を持つことすら恥ずかしく、世界大会に出るまで誰にも言ったことがなかったんですけどね。」

これが“濱田選手”の原点となり、中学3年の頃には、県内で優勝するまでになる。そして、熱心な練習姿勢が評価され、高校生に混じってインターハイに連れて行ってもらえたことで、たくさんの刺激を受け、帰りの道中で、「来年は絶対インターハイでベスト16に入ります」と宣言。先生には呆れられるも、絶対やってやろうという気持ちで練習に邁進した結果、高校1年でインターハイ13位に。2年ではダブルス優勝と、高知から着々と世界に歩みを進めていた。

中央大学に進学後は、周りのレベルの高さに圧倒され、さらに練習に没頭。朝練後、授業に出て、空き時間にはまた練習するという毎日を過ごす。「授業がない時はひたすら練習していました。思い返すと、喫茶店にすら一度も行ったことがなかったですね（笑）。でも、押し付けられて練習をしたことは一度もありません。」

ただ卓球が好きで、もっと強くなりたい、その一心でした。

その甲斐あって、4年で初めて世界選手権に出場し、シングルス3位に入賞。中学1年から抱いていた目標は、ここでもようやく花開いた。卒業後は、中学時代から愛読していた雑誌「卓球レポート」の編集者として、仕事と卓球を両立する日々が続く。そして、26才で出場した3度目の世界選手権のダブルスで見事優勝を果たし、長きに亘る選手生活にピリオドを打った。常に目標達成を追い求めて



カナダの古書店で教え子が偶然見つけて贈ってくれたという卓球の本。なんと、そこには往年の“濱田選手”の姿が!

残している。濱田先生は、2010年に本学に着任し、卓球部の指導にあたるようになった。2009年の公立大学法人化を機に、文武両道をめざすべく部活動の本格的な支援を始めるにあたり、強化種目の一つである卓球の指導者として、濱田先生に白羽の矢が立ったのだ。当時、母校の高知県・私立土佐女子高校で指導をしていたが、ちょうど定年を迎えようとしていた。「大学からお話をいただいたときは、これも何かのご縁だから最後の仕事だと思い、全力でやる決心をしました。」

就任当時の部員数は、男子11名、女子2名。卓球部ではなく“卓球同好会”

だったが、練習熱心な学生が揃っていた。濱田先生は「四国大会優勝」を目標に再スタートを図り、その年の大会で女子は2位に躍り出る。さらに同年、スポーツ実績を重視した「特別推薦入試」が開始。翌年4月には力のある選手が全国から集まり、躍進の原動力となった。

「時間を守ることや礼儀、身だしなみなど生活態度はすべて勝負に出てくるので、厳しく指導します。また、学業を疎かにしないようにと、学生たちには常に伝えています。皆とても真面目に努力していますね。私は土佐女子中学校に入学後、すぐに卓球を始めましたが、『成績が下がったら辞める』というのが部の方針だったので、ずっと学業との両立を目標にやってきました。指導者になってからも、その方針は変わりません。」

技術面だけでなく、生活面における厳しくきめ細かな指導こそが濱田流なのだ。

強くなりたい一心で練習に明け暮れる日々

濱田先生の卓球人生は、常に目標を掲げ、その実現に向けてひたすら努力する日々

元世界チャンピオンが、卓球部の指導者に

「本気で目標を定めると案外実現は可能なもの。自分を信じてやってみることでいろいろ運を呼び込めると思うんです。」

高知県出身で元世界選手権金メダリストの濱田先生が顧問に就任してから、本学卓球部は快進撃を続けている。“高知工科大学に卓球部あり”と全国にその名を知られるまでになった。2012年の第52回全国国公立大学卓球大会で女子は3冠王、男子は団体・ダブルス・シングルス3位入賞を果たす。さらに全日本インカレでは女子がベスト16に入るなど、まさに快拳とも言える戦績を次々に

卓球部の快進撃はまだまだ続く！ 高知から日本、そして世界へ



常に“高い目標”を掲げている！
本気でやれば達成できる

Flying Fish INTERVIEW

濱田美穂教授

共通教育教室
卓球部顧問



初のコラボイベントは大にぎわい!

香美市役所に隣接した広場で毎週行われている「土佐山田平成日曜日」にて、11月18日(日)、本学と日曜市のコラボイベント「おはまる市」を開催しました。

日曜市を運営する「土佐山田日曜日平成組合」の理事長から、日曜市でアルバイトをしている宮川結衣さん(環境理工学群3年)に「出店者の高齢化が進む日曜市を活気づけたい」と話があったことがきっかけ。授業でともに地域おこしを学んだ面迫智美さん(環境理工学群3年)に相談し、企画が実現しました。

当日は、演劇部による「ヒーローショー」をはじめ、吹奏楽やよさこい演舞、アカペラ、ジャグリングのほか、商品開発同好会が地元野菜を使った豚汁を販売するなど、子どもからお年寄りまで楽しめる演出で会場は大にぎわい! 今後の継続した取り組みに、地域からも大きな期待が寄せられています。



SPECIAL TOPICS!

山田をゲンキに! 「おはまる市」開催!!

来場者はのべ 2000人! 2人の学生が一から作り上げたイベントは大成功。

教えて! 企画のウラガワ



仕掛けた人たち

「多くの出会いと支えがあったからこそ」

渡邊先生の授業「地域共生概論」を受講したことで、地域のために何かやってみたく考えるようになった宮川さんと面迫さん。2011年3月に、組合理事長から宮川さんに日曜市の活性化について話があり、「地域を活性化するためにまずどう進めたらいいか。」と渡邊先生に相談したところ、「自分達のやりたい事を考えてみたら?」と背中を押してくれたそうです。「演劇やアカペラサークルの顧問を務める渡邊先生の協力も得ながら、いろんな団体に声を掛けた結果、9つの学生団体と学生ボランティアの総勢約80名が集まりました。香美市商工会や香美市観光協会の方にご協力いただいたのも、先生のおかげです」と面迫さん。困ったときには、日曜日の方に相談すれば助けてもらえたといいます。渡邊先生は「助けて」と言える関係をつくるのができてよかった。地域の方に育てて頂いて、とてもありがたい」と話します。

入場者はのべ2000人を記録。日曜日の方々や来場者は皆さん口を揃えて「とてもよかったので、またやってね!」と激励してくれたそうです。「協力して下さった地域や工科大の皆さんに本当に感謝しています。後輩の仲間をたくさん集めて、長く継続できるイベントとして、定着させていきたい」と意気込む宮川さん。今後さらにパワーアップする「おはまる市」から目が離せません!



渡邊法美先生 (マネジメント学部)



宮川結衣さん (環境理工学群3年/愛知県出身)



面迫智美さん (環境理工学群3年/広島県出身)

TOPIC 地元土佐山田町の冬の風物詩

01 KUT + illumination2012

12月1日(土)～1月6日(日)の1ヶ月間、約3万球のLEDを使用したイルミネーションがキャンパスをロマンチックに彩りました。この取り組みは学生が主体となり、地域の方との交流を図ることを目的に行われているもの。毎年キャンパス本来の夜景の美しさを最大限に活かした装飾が施されています。

記念すべき10回目となった今年のテーマは“magic”。訪れる人の心に幸せの魔法をか

けるべく、デザインを一新しました。池の上に浮かぶ青と白のLEDで装飾された高さ15メートルの巨大ツリーは、水面に光が反射し、輝きが倍増。幻想的な雰囲気を演出していました。12月23日(日)のクリスマスイベントでは、吹奏楽やアカペラの演奏、またサンタの衣装でジャグリングを披露するなど、訪れた方々をクリスマスモードで包み込みました。



TOPIC 今年のテーマは“COLORS”

02 “Flying Fish Festival 2012”



10月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり、大学祭「Flying Fish Festival 2012」が、例年同様、隣接する鏡野公園での「刃物まつり(主催:香美市商工会・刃物まつり実行委員会)」と同日開催されました。16回目となる今回のテーマは、「COLORS」。学生らの活気あふれる模擬店やさまざまなステージイベントはもちろん、恒例のよしもと芸人によるお笑いステージに、会場は大いに盛り上がりました。また、今年は大学祭史上初めてとなる打ち上げ花火がテーマどおり夜空を彩り、堂々たるフィナーレを飾りました。ご来場いただいた皆様をはじめ、開催にあたりご協力いただいた地域の方々や関係者の皆様、本当にありがとうございました。



KUT INFORMATION

autumn - winter 2012

KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します！



16人が新たな門出 秋季卒業式・学位授与式

9月28日(金)、平成24年度秋季卒業式・学位授与式を執り行い、学士課程2名、修士課程3名、博士後期課程11名が本学を巣立ちました。学位記授与に続き、佐久間学長からは「これからの人生においてはさまざまな困難もしくは難しい課題に直面する場合もあると思います。その場合には、皆様方が今回高知工科大学で学ばれた経験を活かして、そういったさまざまな困難を乗り越え、人生を豊かにしていただくことを心から願っております」とはなむけの言葉が贈られ、卒業生・修士代表の譚仁鵬さん(基盤工学専攻 博士後期課程)からは、「私は留学の道を選び、皆様と出会ったのは一つの縁であり、この縁で結ばれた絆を大切に、さらに広がってほしいと思っています。日本の維新に大きく貢献した土佐にあり、大学の維新を開いている高知工科大学で学べたことは大変な誇りです。この誇りこそが、新たな門出を迎えた私たちの生涯の心の支えとなり、困難を乗り越えるエネルギーになると確信しております」と謝辞が述べられました。

新たな学びの道へ 秋季入学式を行いました

10月1日(月)、平成24年度秋季入学式が執り行われ、大学院工学研究科基盤工学専攻修士課程6名、同博士後期課程5名、計11名の新入生の新生活が始まりました。佐久間学長から「大学内では美しいキャンパスの中でさまざまな教育プログラムの改革が進行中で、教職員一同力を合わせてよい大学づくりに努力をしていきます。新入生の皆様方もぜひそのつもりで努力をしていただければありがたいと思います」という告示があり、入学生代表Attachaiyawuth Anuwatさんによる入学生宣誓では「博士後期課程特待生選抜に選ばれ、大変うれしく思っています。このような機会を与えてくださったみなさまに感謝したいです。将来は帰国して大学の教員になり、日本とタイ両国間の学術交流の懸け橋となれるよう一層努力したいと思います(和訳)」と決意が述べられました。



佐久間健人学長が 藍綬褒章を受章

佐久間健人学長が、平成24年秋の褒章にて藍綬褒章を受章しました。藍綬褒章は、教育、医療、社会福祉など、公衆の利益を興し成績著明な者、または公共の事務に尽力功績著明な者に授与されます。この度は、佐久間学長による日本工業規格(JIS)の制定及び普及への功績に対し与えられました。



中田慎介教授が 瑞宝小綬章を受章

中田慎介教授・地域連携機構地域連携センター長が、平成24年秋の叙勲にて瑞宝小綬章を受章しました。瑞宝小綬章は、公務等に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者に授与される勲章で、中田教授の旧建設省建築研究所時代の国際地震工学研修および耐震関係の功績に対し贈られました。



南海地震発生を想定 全学一斉防災訓練を実施

10月24日(金)、南海地震発生を想定した本学初となる全学一斉の防災訓練を実施し、学生・教職員およそ800名が参加しました。今回の訓練では、緊急避難等に対応するための防災力を養うことを目的として、地震発生後の緊急避難および誘導、学生の安否確認や災害対策本部からの指揮命令と自衛消防隊による負傷者救助、初期消火などの訓練を行いました。必ず発生する南海地震に備えるため、本学では今後も災害対策に取り組んでいきます。



1本のたすきに思いをつなぐ 「リレー・フォー・ライフ in 高知」に参加

10月6日(土)、7日(日)に高知市城西公園で開催された「リレー・フォー・ライフ」に本学学生と職員ら26名が参加しました。このイベントは「がんは24時間眠らない、がん患者は24時間と闘っている」をメッセージとして、フィールドを歩くことで、がん患者・家族・市民医療従事者・行政・企業など、多数の方の思いを一つにするチャリティイベントです。

当日学生らは、がん患者やがんを克服した方々とともに、24時間交代で1本のたすきをつないで歩き続けました。夕方からはあいにくの小雨模様となりましたが、学生ら参加者の強い思いが通じたのか、翌日は快晴となりました。参加した学生たちは、本イベントを通して自分たちのできる支援活動の可能性について考える機会となったようでした。



地域と学生が一体に！ 郷土芸能継承をサポート

11月11日(日)、「グリーンパークほどの」のお祭り広場にて、「第23回ほのほの王国もじまつり」が開催され、本学学生と地域の方々総勢200名が、いの町吾北地区(柳野)に伝わる「柳野豊年踊り」を披露しました。これは、マネジメント学部のカリキュラムである「経営システム特別講義」の講師を務めていただいた國友昭香氏(國友商事株式会社 代表取締役社長)との縁で始まり、約800年の伝統ある踊りを、継承・保存をサポートしよう

と、坂本研究室(マネジメント学部 坂本泰祥准教授)の学生を中心に、3年前から活動している取り組みです。今年は12名の学生が参加し、地域の方々とも何度も練習を重ね、交流を深めました。この取り組みの代表を務める戸梶貴文さん(マネジメント学部4年)は、「このような機会をいただけたことに感謝し、少しでも柳野の力になれるよう精一杯取り組みます」と、地域活性に対する熱い思いを聞かせてくれました。

ナノ材料研究の活性化へ 高知工科大学ナノテク研 シンポジウム2012



11月17日(土)、さまざまな重要課題解決のカギとして注目されているナノテクノロジーに関するシンポジウム「高知工科大学ナノテク研シンポジウム2012」を、本学で開催しました。

これは、ナノ材料研究者の交流のきっかけづくり、互いの研究分野を知ることで、今後の研究協力の可能性を見出し、研究をさらに活性化することを目的としています。県内外の企業研究者や大学関係者など、約50名が参加しました。本学学生による研究発表を皮切りに、新田紀子講師(本学ナノテクノロジー研究所)によるTEM活用基礎講座や、保田英洋教授(大阪大学超高压電子顕微鏡センター)による基調講演、為我井晴子氏(ルネサスエレクトロニクス株式会社生産本部)による特別講演を実施しました。会場では活発な質疑応答・意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

本学とのさらなる交流へ 嶺南大学校訪問団が来学

10月5日(金)、韓国・嶺南大学校から朱 祥佑(ジュ・サンウ)副総長、李 承煥(イ・スンファン)国際交流チーム長、慎 昶仁(シン・チャンイン)国際交流チーム日本担当の3名が、本学との交流の具体化を視野に来学されました。

嶺南大学校は韓国大邱広域市に隣接した慶山市にある総合大学で、181の交流協定校と積極的な国際交流活動を展開し、多くの国際交流体験を多様なプログラムを通して、学生たちに提供しています。一行は八田章光教授(国際交流センター長)らとの意見交換会の後、王 碩玉教授(システム工学群)の研究室や、ナノテクノロジー研究所をはじめ、キャンパス内を見学しました。



科学研究費助成事業審査委員 として篠森敬三教授を表彰

独立行政法人日本学術振興会より、科学研究費助成事業審査委員として篠森敬三教授(情報学群)が表彰されました。科学研究費助成事業(科研費)の配分審査は、専門の見地から2段階(書面審査と合議審査)で行われています。同会は、審査の質の向上のため、審査結果の検証を、独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センターにおいて行っており、その結果を、翌年度の審査委員の選考に適切に反映させるとともに、模範となる審査意見を付した審査委員を選考し表彰しています。今年度は第1段審査(書面審査)委員約5000名の中から115名が表彰されました。同会からの表彰状及び記念品は11月5日(月)、本学佐久間健人学長から篠森教授に手渡されました。



片地小学校に出前授業 紙ロケット打ち上げ体験！



10月26日(金)、片地小学校において、同小6年生20人を対象に、高崎敬雄教育講師、山崎和雄教育講師が、紙ロケットの制作・打ち上げ体験学習を実施しました。児童らは、ハサミで切ったり、糸を通したりと、手先を使った細かな作業に苦戦している様子でしたが、パラシュートを搭載した長さ約40センチ、直径2センチの筒型火薬紙ロケットを見事完成させました。

秋空の広がる校庭に、「発射準備完了! 低空飛行物体なし! 秒読み開始! 5、4、3、2、1……発射!」の音が響きわたると、点火されたロケットは、火を噴射しながら青空に向かって一直線に飛び立ちました。50メートルほどの高さまで打ち上がった自作ロケットに、児童らは歓声をあげ「パラシュート開け〜!」と大はしゃぎ。滞空時間を競い合うなど、打ち上げを楽しんでいる様子でした。

出前授業(ブルーバード訪問教育)は、本学の地域教育支援事業の一貫として実施しているもので、これらのイベントを通して理科学に興味を持つ児童が増えることを願っています。詳しくは本学ホームページをご確認ください。



さらなる飛躍の第一歩! 学生が論文賞をダブル受賞

このたび、応用物理学会主催の国際会議AM-FPD'12《19th International Workshop on Active-Matrix Flatpanel Displays and Devices-TFT Technologies and FPD Materials》(7月4日(水)~6日(金) 於:龍谷大学アバンティ響都ホール(京都市))で、戸田達也くん(大学院修士課程 物質・環境システム工学コース2年)が発表した論文が、「AM-FPD '12 Student Paper Award」を受賞しました。これは特に優秀と認められた学生論文に対して贈られる賞で、85件の論文のうち参加者の投票により3名が受賞しました。

また、戸田くんは11月2日(金)・3日(土)、なら100年会館(奈良市)で開催された「第9回薄膜材料デバイス研究会」においても、同研究で学生アワードを受賞。見事ダブル受賞の栄誉に輝いています。

[受賞題目と研究概要]
“Fabrication and Characterization of Thin-Film Transistor Using Dielectrophoretic Assembly of Single-Walled Carbon Nanotube” (誘電泳動集積法による均一で高配向な単層カーボンナノチューブチャネルを用いた薄膜トランジスタ)
カーボンナノチューブ(CNT)は、ナノテクノロジーを代表する新しい半導体材料として注目され、機能素子応用の研究が活発に行われています。しかしながら素子特性やばらつき制御法が確立されているとは言えず、機能デバイス応用への課題となっています。本研究は誘電泳動集積法による均一で高配向なCNTチャネル形成ならびにトランジスタ応用に関する研究であり、素子特性向上とばらつき低減を両立できる可能性を示したものです。

受賞者のコメント

本研究は高配向かつ、密度が均一なカーボンナノチューブ薄膜によりトランジスタ特性の向上とばらつき低減を両立できることを示した点が評価され、受賞に至ったと思います。本研究は、環境理工学群とナノテクノロジー研究所における学内交流をきっかけに始まったものであり、本学クリーンルームの研究装置を用いて実施しました。関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げますと同時に、さらなる研究成果の創出に向けて博士過程で頑張っていきたいと思っています。

研究成果の社会還元に向けて 技術・交流展示会に出展

9月27日(木)、28日(金)の2日間、東京国際フォーラムで開催された「イノベーションジャパン2012大学見本市」に、また11月14日(水)～16日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア」に、本学教員計4名が出展しました。両展示会は、大学などから創出された研究成果の社会還元を促進し、技術移転並びに産学連携への端緒となることを目的としたイベントです。各ブースでは、企業担当者と活発な情報交換・意見交換が行われ、また多くの相談もあり、今後の共同研究や技術移転へと発展することが期待できます。

■イノベーションジャパン2012 本学出展
【電動アシスト自転車用非接触給電システム】システム工学群 岡 宏一 教授
【薄板状部品の全面精査システム】システム工学群 竹田 史章 教授
【エピタキシャル成長技術を要しない三軸結晶配向技術】環境理工学群 堀井 滋 准教授
■アグリビジネス創出フェア2012 本学出展
【凍結濃縮システムの開発～果汁などの液状食品の成分安定濃縮操作の確立を目指す～】地域連携機構連携研究センターものづくり先端技術研究室 松本 泰典 准教授

キャチロボバトルコンテストで ロボット倶楽部が準優勝!

9月8日(土)、立命館大学びわこくさつキャンパスで開催された「キャチロボバトルコンテスト ～機械は人間の手を超えられるか～」に「ロボット倶楽部」が出場し、初出場ながら見事準優勝と審査員特別賞を受賞しました。

この大会は、規定の競技フィールドに入っている対象物(カップ麺)を、各チームが制作した自作ロボットでキャッチし、ボックスにシュートしてその得点を競うというもの。開催2回目となる今回は、ロボット倶楽部を含む13チームが出場しました。

学生たちは、6月に制作を開始してから大会ギリギリまで調整を行ったそうで、代表の中山祐一君(システム工学群3年)は、「今回の結果は自分たちの自信につながりました。他大学の学生と交流したり、その技術を見たりする機会もあり、この経験を生かしてさらに技術に磨きをかけていきたいと思っています」と語っていました。

立ち見が出るほど大盛況! 公開講演会を開催

本学 総合研究所 赤澤威教授が領域代表を務める科学研究費新学術領域研究「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相:学習能力の進化に基づく実証的研究」の第1回公開講演会が、東京の学術総合センターで開催され、海外からこの分野の研究を世界的にリードする3名の研究者が講演しました。

500名収容の会場は、国内外の研究者だけでなく一般のご来場もあって立ち見が出るほどで、このテーマに関する興味の高さがうかがえました。

研究成果の実用化をめざして、 「CIC 東京 新技術説明会」開催

9月7日(金)、本学東京教室が入居する、港区・田町のキャンパス・イノベーションセンター東京(CIC東京)

にて、「CIC東京新技術説明会」が開催されました。独立行政法人科学技術振興機構(JST)との共催により、大学で生まれた研究成果の実用化を促進することを目的に、CIC東京に入居する11大学から22件の発表が行われ、200名を超える来場がありました。西脇永敏教授(環境理工学群)による「環境負荷の軽減を指向したガラス担持型触媒の開発」には、70名の方々にご参加いただき、発表終了後の展示ブースや個別相談コーナーにも民間企業等の来訪が多数あるなど、その関心の高さを実感することができました。

食生活を見直すきっかけに 食育料理教室を開催

10月23日(火)、香美市の協力を得て、本学健康相談室による食育指導の一環として料理教室を開催しました。自宅外食が多くを占める本学では、一人暮らしのため食生活の乱れも心配されます。当日は学部1年生から修士2年生までの学生12名が参加しました。

教室では、まず香美市管理栄養士による食生活バランスの見直し方や、市販品に含まれる糖分や油分の比較などの座学が行われました。その後、学生全員で栄養バランスを考えた料理に挑戦。参加した学生は「普段何気なく食べている食べ物の中に、予想以上に糖分や油分が含まれていることに驚いた。実習では、包丁の使い方や調理の仕方を学ぶことができ、できあがった料理を見て、とても達成感があった」と話してくれました。健康相談室では、今後も体験型の食育指導を実施していく予定です。

留学生とともに日本を学ぶ 日本文化研修の開催

9月23日(日)から24日(月)の2日間、本学留学生と国際交流に関心の高い日本人学生の希望者を対象に、1泊2日の日本文化研修を行いました。この研修は、学生同士の交流を深めながら、高知の地理や歴史について学び、日本の生活を体験することで日本文化を知ることが目的としています。

今回は、高知県東部を中心に、室戸ジオパーク(室戸市)や岩崎弥太郎生家(安芸市)など、歴史的建造物や歴史に触れました。

日本人学生らは、日本文化の良さを留学生に伝えるため、外国語を交えながら懸命にコミュニケーションをとっている様子でした。



香美警察署と合同で 秋の交通安全運動を実施

9月24日(月)、本学学生18名が香美警察署と合同で秋の交通安全運動を実施しました。当日はゲストである土佐山田町在住の漫画家くさか里樹さんが一日署長として挨拶された後、学生団体運営委員会の木村理紗さん(マネジメント学部1年)が代表で交通安全宣言を行い、ドライバーサービスを開始。参加した学生らは香美警察署前を通行するドライバーに「安全運転をお願いします!」と元気な声をかけながら、交通安全を呼びかけました。

イベント後、学生からは「事故が一つでも減るようにと願いながら声を掛けました。友達の身を守る、家族の身を守るといった身近な視点からの交通安全活動をこれからも考えていきたいです」という声が聞かれました。これからはますます夕暮れが早くなる季節となりますが、本学としてもこのような啓発活動を継続的に実施していきます。



宇宙の神秘を学ぶ! 冬の科学教室を実施

12月14日(金)、春野総合運動公園にて、小・中学生を対象とした「冬の科学教室～天体体験教室～」を実施しました。雨天による天体観測の中止に関わらず、80名以上の方にご参加いただきました。当日は、本学学生団体Space.Labと土佐塾中高等学校・天文部による、プラネタリウムと星座早見盤の手づくり教室のほか、宇宙についてのお話会も行いました。イベント終了後、早くも望遠鏡をおねだりする子どもたちの姿が印象的でした。



ソフトボール部が快挙! 秋季大会(四国地区)で優勝

10月13日(土)、14日(日)に行われた「平成24年度四国地区大学男子ソフトボール秋季大会」(主催:四国地区大学ソフトボール連盟 会場:香川県丸亀市丸亀土器川公園ソフトボール場)で、ソフトボール部が、1日目、2日目のトーナメント戦を勝ち抜き、見事優勝しました。主将の坂東滉紀君(システム工学群2年)は、「9月の全国大会終了後、新チームとしての初の公式戦に努力してきた結果が“優勝”という形であられ、ほっとしています。また、全国大会に出場するにあたって、大学から、地元からとたくさんの応援の声をいただいたことに感謝しています。この冬も春に向けて、しっかりと練習の中で課題を克服し、2年連続の全国大会出場へつなげていきたいです」と語っています。同部は今年5月に行われた「四国地区春季大会」「全国大会四国予選大会」を含め、四国大会の3大会すべてを制したことになります。今後もソフトボール部の活躍にご注目いただくとともに、皆様からの応援をよろしくお願いいたします。

シカの食害から森を守ろう! 植生回復ボランティア活動に参加

10月14日(日)、シカの食害防護ネットの設置作業に本学学生と職員ら13名が参加しました。

近年、シカが木の皮を剥いだり、一体の植生を食べつくすという森林被害—いわゆるシカの食害—が社会問題となっています。作業場所となった三嶺山系のカヤハゲには「三嶺の森をまもるみんなの会」や「高知中部森林管理署」が中心となり、以前から防鹿柵が設置されていますが、今回はこれまでの活動の効果を確認するとともに、より広範囲にわたる植生回復を目的に実施されました。

学生たちは急な山道を2時間ほど歩いて作業場に着くと、「三嶺の森をまもるみんなの会」事務局の方の熱の入った指導のもと、シカの侵入を防ぐネット張り作業にあたりました。シカの鳴き声が聞こえてくる中、同じく参加していた高知農業高等学校の生徒さんたちと交流する機会もあり、高校生の作業を手伝うなど、山の先輩として頼もしい姿も見せてくれました。

作業後は、少しずつ色づき始めた三嶺を眺めながらの下山となり、地元の方と一緒に地域の問題に取り組むとともに、自然の移り変わりを体感する貴重な機会となりました。



乗り続けるにも
乗り換えるにも
“今”が大切!



イイセンスジャッチ
高知工科大学
広報担当 前田さん

先生自身が日々感じていることを、
ちょっとイイセンスらしく
語ってもらいました!

今回言い過ぎる人
ふるた まちる
古田 守 センセイ



若者の車離れが言われて久しいが、基本的にVehicle(乗り物)が好きである。自らの学生～会社員時代を振り返るとVehicleが人生に彩りを与えてくれた。高校時代はMotorcycleに熱中し、分解・整備を学び、夏には1か月程度気ままにツーリングしたりと大いに楽しんだ。大学～社会人時代はMotorcycleに加えて自動車競技にはまり、ラリーに熱中した。

今の専門は電子・機能材料であるが、本質的には、どうも機械系もしくはメカトロニクスが好きなのである。

楽しいVehicleではあるが、数年経つと物欲に負けて買い換えたいくなる。買い換える理由としては、家族の意見を横に置きつつ、新鮮さがなくなった、新しいテクノロジーが搭載された、環境性能が向上した、といった理由付けができるが、本質的には新しいテクノロジーに興味がある。

企業を経験した後高知工科大学に着任し、当時副学長であった水野博之先生(元松下電器産業 技術担当副社長)とお話させていただいた際に「職場もVehicleやで。気に入って一生の仕事にしようと思ったらそのまま乗っいたらえんや。気に入らなかつたら乗り換えるしかないわな」というお話をいただいた。

職場の乗り換えは車の買い換えと違って少しエネルギーを必要とする。大学での研究室活動は、一生の仕事にしようとするものを見つけるための手助けになる。高知工科大学では多くの研究が行われており、各学群・学部に加えて研究本部を中心とする各研究所においても先導的な研究が実施されている。大学での研究室活動を楽しみにしている学生も多いと思うが、研究というのは自由でおもしろい反面、世界に先んじようとするときりぎりの発想を絞り出す厳しいものでもある。でもそこから逃げ出すわけにはいかない。研究活動はこれまでの「知識」を集積・発展させ、「人類の進歩」に寄与するものである。

大学生活最後のイベントである研究室活動を最大限楽しむためには、配属までに知識を集積していく「学び」が重要である。一生の仕事とするVehicleを見つけるためにも、学生の今、やるべき事・やらねばならぬことを今一度考えてみて欲しい。

最後に、昔の学生にとっては「車」といえば彼女を見つける重要なツールでもあった。人生の伴侶は「気に入らなかつたら……」というわけにはいかないのでご注意ください。

オンマイ



学生への各種表彰、名誉教授称号が授与されました。

開学記念日である11月7日(日)、平成24年度開学記念日式典が執り行われ、学生への各種表彰ならびに名誉教授称号授与が行われました。

学長表彰 前年度成績優秀者

	システム工学群	環境理工学群	情報学群	マネジメント学部
4年次生	金井 啓太 福岡 優輝 安藤 直弥 児玉 駿太 村上 遼 KEDMANVONG Chittavong 秋友 郷志 中村 有希 森光 利至 江口 翔平	粟根 綾香 佐浦 啓介 有本 香奈 上野 公義 廣本 奈々香	福地 早希 川上 嵩仁 田中 亜璃紗 橋田 佳昌 相川 由樹	堀内 賢太郎 片岡 由梨江 武政 弓加 西野 瑠萌 岡林 信幸 宮崎 ゆうき
3年次生	井上 皓久 坂本 裕樹 伊東 良祐 長塩 拓馬 大石 香織 岡林 由真 岡崎 未来 永井 悠河 市川 幸平 安田 貴紀	井手口 智紀 松浦 未鈴 竹之内 良太 矢島 由葵 掛水 綾	川崎 智太 福井 さゆり 鳳 大希 栗原 慎也 明神 明良	鈴木 くみこ 濱田 将 濱島 理絵 池田 尚哉 中山 雄紀
2年次生	山下 茜 白木 研伍 山下 崇仁 波多野 楓華 加納 翌美 岡部 祐紀 佐藤 博則 川野 昭矢 長谷川 悠 山本 新	西村 咲希 影山 奈未 毛利 光 柴内 博 河野 将大	宮崎 玲奈 谷村 直哉 中山 佐和子 渡部 弘章 冨田 涼太	山崎 祥悟 室井 悠碧 西岡 真弥 川村 亮介 河井 政樹

教育本部長表彰 3年次生

人文・社会科学等科目成績優秀者

システム工学群	大坂 基樹
情報学群	赤澤 健人
システム工学群	岡崎 未来
システム工学群	大石 香織
システム工学群	森 洋介
情報学群	宇野 則文
マネジメント学部	池田 尚哉
システム工学群	坂本 裕樹
環境理工学群	河邑 龍二
システム工学群	前田 莉絵子

自然科学等科目成績優秀者

システム工学群	大石 香織
システム工学群	井上 皓久
情報学群	栗原 慎也
システム工学群	長塩 拓馬
情報学群	鳳 大希
環境理工学群	岡 勇氣
システム工学群	岡崎 未来
システム工学群	伊東 良祐
情報学群	三木 悠平
環境理工学群	松浦 未鈴

岡村甫賞

マネジメント学部	福島 舞子(1年)
----------	-----------

学長褒賞

個人

マネジメント学部	原 佳菜絵(1年)
システム工学群	西森 賢(2年)
マネジメント学部	末内 誠(4年)
システム工学群	杉内 美友(2年)

廣井勇賞

システム工学群	井上 皓久(機械系)
システム工学群	東 勇太(電子系)
システム工学群	市川 幸平(建築系)
環境理工学群	山下 愛智
情報学群	赤澤 将太
マネジメント学部	大西 康太

岡村甫奨励賞

マネジメント学部	松山 明花(2年)
----------	-----------

名誉教授称号授与

河東田 隆
藤澤 伸光
成沢 忠
平尾 孝

※表記はすべて敬称略

CONGRATULATIONS!

学生たちの強い味方! 事務室の裏側に潜入!

事務って色々あるよね?

私たち2人には、事務室といえは履修確認に訪れる場所という程度のイメージしかないのですが、どのようなお仕事を日々されているのでしょうか? それぞれの事務室で聞かせていただきました! 具体的には両事務室とも、先生方の講義や出張のスケジュール、研究費の管理、学群・学部のオリエンテーションや学生の履修確認などの対応、来客対応などをなさっているそうです。そんな事務室のお仕事で楽しいことを伺うと、「ガラスに仕切られた事務室だからこそ学生の成長が目に見えることが嬉しい」とおっしゃっていました。また、出張から帰ってきた先生からさまざまな地域特産のお土産がもらえることもポイントが高いようです。反対に困難なことは、先生との会話の中で難解な専門用語が飛び交うこと。先生や学生、事務局など多くの人とコミュニケーションを取り、パイプ役を担っているんですね。

学生特派員



右: 寺原春菜さん (環境理工学群3年)
左: 後藤夏実さん (環境理工学群3年)



持ち味披露! ごらんあれ
さあ、それではそんな事務室の特色とはなんでしょう? まずは情報学群事務室は、とても仲良し!



このように、先生とも学生とも距離の近い事情通の事務室の方ならではの感想として、枠からはみ出ないように行動する学生が増えたと感じるようです。また、名前も名乗らず、用件だけ話し始める人も多いため、あまりにひどい場合は注

学群・学部の学生さんって...

学生や先生主催のパーティーやキャンブなどたくさんイベントのお誘いがあるそうです。研究室の打ち上げにもお声がかかるか。またお話の中でつい声が大きくなりすぎて、隣部屋にいらつしやる学群長からも少し静かに、と注意を受けたこともあるそうです(笑)。続いてシステム工学群事務室、室内の雰囲気も素敵! 学生が入りやすいようにブラインドは常に上げており、掃除以外は下ろしたことがないそうです。先生が来たときにお2人が対応できなくても大丈夫なように、室内の物品が目に分かるようになっていました。また、みなさん飲み物を買っていました。また、みなさん飲み物を買ったので、事務室で立ち話をされていくのだとか。学生にも先生にもなくてはならない「悪い場」なんですね。

ハルナツコンビのジッカンnote

「事務室がより身近になったね」
「事務の方だけじゃなく先生も利用してるから、いろんな方と会話を楽しむことも出来るね」
「今日は、餅つきイベントをやってる研究室のお話も聞けたし」
「私たちもみんなを交えてのイベントを企画してみない?」
「いいねー! 美味しそう、いや、楽しそう!」

守ってくださーい!

ズバリ、伝える!

恒例の「何かひと言伝えたいこと」を伺うと、「就活コーナー始めました! (笑)」と川越さん。情報学群の学生さん、ぜひご活用を! 「学生生活を送る中でわからないことがあれば気軽に声をかけてください」と岡田さん。私たちを卒業まで(卒業後も)支えてくださり、時には厳しいお言葉をくださる事務室のみなさん。成長をずっと見守ってくださーい!



システム工学群事務室 石川路奈子さん

システム工学群事務室 岡田有加さん

情報学群事務室 森尾美代子さん

情報学群事務室 川越智予さん

がんばらうネ! 工科大⑦

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回のインタビューは高知工科大学留学生寮「楠目寮」のご近所に住む中西基さん。代議士秘書、建設会社副社長、団体役員などを経て、現在は「晴耕雨読」の生活を楽しんでいます。囲碁を通じた国際交流、採れたて野菜の差し入れなど、本学の留学生が大変お世話になっています。時々、寮のパーティーでお会いする中西さんに、今回はじっくりお話を伺うことができました。

今回のインタビューー
国際交流センター特任教授 伴美喜子



—— 中西さんには開学当初より本学を見守り、応援していただいています。開学当時の思い出をお話いただけますか。

最初に話を聞いた時は香美市民として嬉しかったね。反対もあったと思うけど、あれは橋本さん(前知事)の英断よね。大変なことだろうということはわかってしまった。学校というのは30年、50年先よね、花開くのは。その内、タイや中国東北地方あたりから留学生が来るようになり嬉しかった。大事にしちゃらんといかんと思うた。

—— 高知工科大学の学生(留学生)の印象をお願いします。

みんなええ子じゃのう。
一番印象に残っちゃうのは、鄭仁成(ジェン・レンチェン)という朝鮮族の中国人留学生と知りおうて、楠目寮で囲碁を始めたことよね。毎週土曜日に真剣勝負をやりよった。そのうちに他の人たちも加わって、今じゃ10人ばあの同好クラブになっちゃうぞね。

国際交流ちゅうのはまっこと「人に始まり、人に終わる」やね。国へ帰って何年も経つ

応援団員

07

楠目寮生のみんなのご近所さん

中西 基さん



小が大を制す

て、「あの時、土佐山田に親切なおんちゃんがおったなあ」と思い出してもらえれば、本望よね。「親日家」とまでいかずとも「知日家」を育てたいね。周恩来や李登輝も日本に留学しちゃうよ。

—— いつも畑で採れた野菜の差し入れをしていただき、ありがとうございます。

白菜、ネギ、トマト、チシャなど、時々寮の入り口においておくけど、人気のあるのはネギよね。中国東北地方ではネギを乾燥させて保存食にするきね。トマトやキュウリなど生で食べるもんは人気がない。翌日、「取って行ってくれたらうか」と見に来るがよ。全部なくなっちゃうと嬉しいね。



中西さんが差し入れる野菜は留学生に大人気!

—— 高知工科大学の国際交流に期待することをお聞かせください。

国際交流は戦略的にやってもらいたい。地域的なことは大事じゃなかるうか。これからはより発展途上の東南アジアの国々(ベトナム、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマーなど)とも、もっとやったらええと思う。南方の人には、暖かい高知がえいろう。

留学生の中には家族で来る人もおるけど、今までは寮の吉田さん(ドミトリーファザー)のような人がよう面倒をみよった。これから、大学は香美市など行政の力も大いに借りて、組織的に留学生やその家族の支援をやらんといかん。

高知は僻地で、ハンディもあるけど、大学には素晴らしい研究者もおるし、小粒ながらピリッとした大学になってほしいのう。オールラウンドでなくとも独特なもので勝負してほしい。「小が大を制す」という言葉もあるきね。

インタビューを終えて

中西さんは問題意識があり、話題も豊富なので、お話はずきませんでした。お話の中で、留学生の名前がたくさん出て、改めて留学生たちがいかに親しくお付き合いいただいているかを知りました。実は中西さんは岡村理事長と高校時代のクラスメイトで、ともに野球部だったそうです。「本当はね、岡村の応援団をやりゆうがよ」と別れ際にポロリとおっしゃったのを聞いて、謎解きができたような気がしました。中西さんのご親切は半世紀以上にわたるお二人の友情の賜物なのです!(伴)

